



新年のご挨拶

院長……………	2
副院長……………	3
統括診療部長……………	4
事務部長……………	4
看護部長……………	5
薬剤部長……………	5
紹介受診重点医療機関に指定されました…	6
職場紹介 病理診断科……………	7
第77回 国立病院総合医学会 参加報告……………	8
キャンドルサービス……………	10
令和5年度 院内ボウリング大会 ……	10
人事異動……………	11
外来診察医担当表……………	12



初詣 大分県護国神社（大分市）（撮影：庶務係長 渡辺岳志）

2024年 新年の挨拶

院長
奈須 伸吉



皆さま 明けましておめでとうございます。新年早々から、北陸の震災、飛行機事故と悲しい出来事が起きましたが、皆さまは、平穏な年始を迎えられましたでしょうか。

ネガティブ・ケイパビリティという言葉があります。現在のように先行き不透明な時代で、すぐに答えが出にくい場合でも、急がず、焦らず、投げ出さずに耐えてゆく能力とのことですが、まさにこの3年間、多くの医療関係者の皆さまにこの能力があったからこそコロナ禍を乗り切れたのだと思います。さて、辰年になりました。昇り竜のように一気によくなる世の中の状況とは言えず、医療関係者は引き続き耐える能力を維持してゆく必要はありますが、今年はもう一歩前に出て、変えられるものを変えてゆく勇気を持ってもよいと思います。

昨年を振り返りますと、院内では、新型コロナの院内クラスターの早期収束に始まり、その後約240床への病床運用の変更がありました。そして紹介受診重点医療機関に指定されましたが、これは病診連携を深めてゆくためのよいきっかけになると思っています。また、院内感染対策や医療安全対策などの各種チーム医療は、しっかりとした形が継承されていますので、今後さらに良いものになってゆくと期待しています。

さらに次年度は、コロナ禍でしばらくの間ペースダウンしていた、医療の質向上のための活動、例えば

QCやTQMなどについても前向きに取り組んでゆく必要がありますので、職員の皆様にはどうぞご協力をお願いいたします。

一方、病院経営については、昨年の新入院患者数の内訳を見ますと、かかりつけ医からの紹介件数は2019年レベルに回復しましたので、あとは検診異常の紹介初診件数の増加を図り、適切な病床管理を続ければ、トンネルの出口が見えてきます。残りの第4四半期を少しでも良い成績で乗り切って、2024年度の経常収支黒字化にスムーズに繋げてゆきましょう。

他方では、いろいろな病院行事を再開して、職員の生き生きとした姿を、久しぶりに病院外でも見ることができました。新採用者歓迎会、国立病院総合医学会への参加、病院忘年会など、病院の日常が戻ってきました。次年度は、各種コンサートや病院祭などの行事も再開できればよいと思っています。

「職員はみな共同体の一員、お互いを尊重して思いやる。」そして、「愛の心・手で病める人々に寄り添う医療」を実践する。当院の一番の売りを、自信をもって続けてゆきましょう。

今年も、職員の皆さまのお力に期待するところ大なりです。連携医療機関と力を合わせて、地域医療を支えてゆきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

副院長
中村雄介



あけましておめでとうございます。

今年は干支が辰ということで、龍に纏わる話をしたいと思います。一級河川である大野川は大分・宮崎・熊本の3県にまたがる祖母山を源に阿蘇外輪山などの流れを集め、別府湾に注ぎます。また、由布岳に発し、賀来川、七瀬川を合わせ、別府湾に注ぐ、大分川も一級河川です。これらの河川の豊富な水が、蛇や龍に例えられて数多くの話が伝承されています。今市（野津原）の丸山神社には、ひぐらしの門と呼ばれる立派な楼門があり、入り口正面には、見事な彫刻があります。むかし、今市は高地のため、溜め池を作り、田んぼに水をはっていました。溜め池は、丸山神社から遠くないところにありました。ある年のことです、いつもは満々と蓄えられている溜め池の水が、日照りでもないのに減っていくのです。水はどんどん減り、池の底にわずかに残るだけとなってしまいました。このままでは稲はみな枯れてしまいます。ある日、「月夜の晩、溜め池のそばに龍がおった」という村人が現れました。次の月夜の晩に、数人が恐る恐る溜め池を見に行くと、そこに大きな龍が、貴重な溜め池の水を飲んでいました。飲み終わると龍はゆっくりと、丸山神社の方へ姿を消しました。村人は急いで、他の村人に知らせました。ある村人は、「丸山神社で、立派な龍の彫り物を見た事がある。もしかしたらあの龍じゃないだろうか?」と言い出しました。村人が龍を見た

のと同じ時刻に神社にいとってみると、彫り物には龍の形にぽっかりと穴があいています。あくる日、楼門を見に来ると、龍は彫り物の中にいました。「本物そっくりだからいかなのだろう。大工にほんのちょっと傷をつけてくれと頼むのはどうかね」他に良い考えも浮かびませんので、村人たちは仕方なく、龍を彫った大工を呼び、傷をつけてもらう事にしました。大工はしぶしぶ龍のシッポのところを、少しだけ切り取りました。不思議な事に、それ以来、龍が楼門を抜け出すことはなくなり、溜め池も水かさが増し、枯れる寸前の稲は生き返り、秋にはたわわな穂をつけました。「画竜点睛」の成句は、龍を描くとき瞳を施すことで、全体が生き生きし、完璧なものに仕上げるという意味が込められています。今年は「画竜点睛」を「成し」、病院・スタッフともに絵から勢いよく飛び出した登り龍のように、上昇し続け、一層質の高い医療が提供し、新たな成果が得られることを期待しています。



新年のご挨拶

統括診療部長

梶 島 章



明けましておめでとうございます。皆様の年明けが穏やかであることを切に願います。

さて、今年の干支は「甲辰」です。「甲」は十干の1番目、生命の循環の最初に位置し、生命の誕生・急成長・寛大・屈曲・発展といったことを表しています。「辰」は十二支の5番目で、草木の成長が一段落し、整った状態を表しています。要は新芽が葉を広げ、降り注ぐ日の光を全身で浴びている中春のイメージです。

ただ、現実の中春とはいかないようです。2023年5月より新型コロナウイルスが5類感染症に移行されました。行動制限が解除され、日常生活は活気が出てきました。しかし、補助金削減等もあり、病院経営は決して芳しいとは言えません。コロナ対応時の一般病床制限による入院患者数減少は、未だに回復しておりません。紹介・急患受け入れ等の地域ニーズへのより積極的な対応が必要と感じます。その反面、2024年4月からは医師の働き方改革が本格施行となります。医師の休日・時間外勤務に厳しい制限がかけられます。緊急・時間外対応等への影響が懸念されます。地域医療への貢献とスタッフの働き方とのバランスをうまくとる必要があります。

「甲辰」を「陰陽五行思想」で読み解くと、成長を助ける春の日差しは、表に出ているものばかりではなく、日ごろ隠されていたものにまで寛大に広く注がれ成長や変化を促すと言われています。日々の小さな努力が実を結び、地域の皆さんに選ばれる病院になれるよう精進していきたいと思います。

今年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

事務部長

黒 木 嘉 文



新年明けましておめでとうございます。

まずは新年早々発生した能登半島地震において被災された方々にお見舞いを申しあげ、懸命に救助活動を行っている自治体、警察、消防、医療関係者等の全ての皆様に感謝し、敬意を表したいと思います。また今後、当院にもDMAT派遣や看護師派遣の要請があるかもしれません。その時にはご協力いただく場合がありますのでよろしくお願いいたします。

さて2024年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」です。中国の古い思想「陰陽五行思想」によると「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物の成長がどんどん勢いを増して増えていく様子を表しているそうです。2023年の干支が「癸卯（みずのと・う）」でこれまでの努力が花開き、実り始めるといった縁起のよさを表しているとのことでしたが、コロナ禍で減少していた入院患者数が徐々に回復し、コロナ禍以降一度も達成できなかった目標患者数を12月によりやく上回ることができました。これもひとえに医師、看護師をはじめ全ての職員の皆様のご協力及びご尽力による結果であり、まさに「癸・卯」の干支が表す、これまでの努力が花開き、実り始めたことを実感した次第です。年始も早々に患者数が回復し、まさに「甲辰（きのえ・たつ）」のようにどんどん勢いが増し、今年は更に病院運営安定に向けた1年になるよう、合わせて働きやすい職場環境となるように職員皆さんの声を傾聴し、頑張っ参ります。

今年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

看護部長

山田 展代



新年明けましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になりました。本誌面をお借りして、御礼申し上げます。

昨年5月よりCOVID-19は感染症法上の位置づけが5類に移行しましたが、医療現場では今なおCOVID-19のみならず他も含めウイルスとの闘いは続いています。コロナと対峙し色々な制約を課されてきた約4年間、私たちは様々な変化に対応してきたといえます。その中で、昨年は地域医療支援病院、地域の中核病院としての本来の役割を果たすべく救急患者の受け入れや質の高い看護の提供に取り組んでまいりました。昨今不安定な世界情勢ではありますが、この先も地域の皆様のために、最善の看護を提供していくことができるようにしなければなりません。

職員が声を掛け合い思いやり互いの意思を尊重しながら、学びを深め質の高い看護実践ができる組織とするために皆さんの力をお借りしながら尽力して参りたいと思います。

大空を悠々と駆ける龍の年。明るく前を向いて龍のごとく成長していきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

薬剤部長

竹添 達也



あけましておめでとうございます。

報道等でご存じの方も多いかと思いますが、ジェネリック（後発医薬品）メーカーにおいて製造上の不正が発覚したことを発端とし、業務停止などの行政処分が相次いだことに加えて、新型コロナやインフルエンザの流行で需要が増えたことなどを要因に、医薬品の供給不足が2年以上続いています。

昨年8月時点で、日本製薬団体連合会と厚生労働省が、製造販売業者を対象に行った調査では、回答があった9,077品目の後発医薬品のうち、すべての注文に対応できない「限定出荷」と「供給停止」となっているのが32.3%、2,928品目に上っています。

国も不足している薬を製造する主要メーカー8社に対し、在庫の放出や緊急の増産を要請し、その上で、年明けのさらなる増産に向けて、必要となる人員の確保や生産設備の増強などを行うメーカーへの支援を、新たな経済対策に盛り込む方針とのことです。

当院でも、医薬品の確保、代替薬の提案等に努めて参りますとともに、本年度も薬剤部一同力を合わせて業務に尽力していきたいと思いますので何卒宜しくお願い申し上げます。

紹介受診重点医療機関 に指定されました

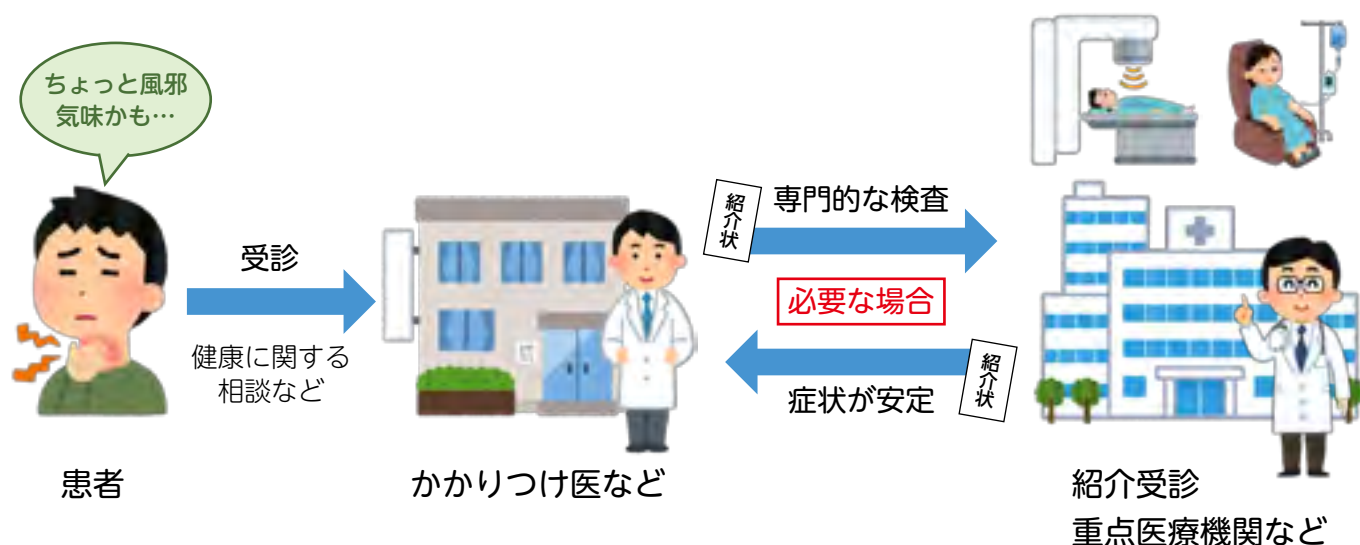
当院は、大分県より紹介受診重点医療機関として指定（令和5年9月1日）を受けました。

当院はかねてより地域医療支援病院として紹介患者さんを中心に診療を行っておりますが、この度、大分県より「紹介受診重点医療機関」として指定を受けました。

「紹介受診重点医療機関」とは、かかりつけ医などからの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関のことで、外来機能の明確化・連携を強化し、外来患者さんの受診を円滑にするために都道府県ごとに決定される医療機関です。

患者さんが、まずは地域の「かかりつけ医機能を担う医療機関」を受診し、その必要に応じて紹介を受けて、「紹介受診重点医療機関」を受診したのち、症状が落ち着いたら逆紹介を受けて、地域の「かかりつけ医機能を担う医療機関」に戻るといった受診の流れを明確にすることが目的です。

この制度により、外来受診での待ち時間の短縮や、適切な検査や治療がよりスムーズに受けられるようになります。



病理診断科

Department of
Pathology

病理診断科部長
荒金 茂樹



病理診断科部長・研究検査部長
荒金 茂樹



病理診断科医師
森内 昭

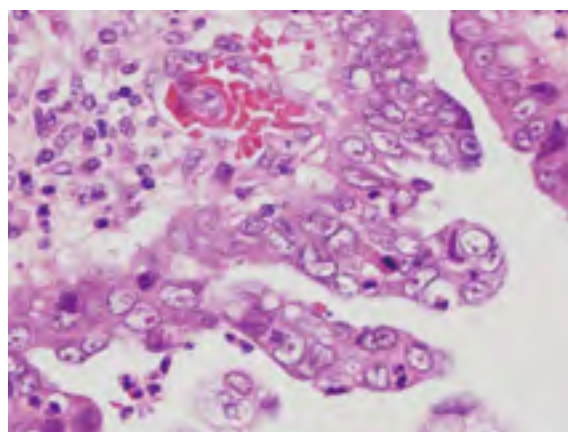
大分医療センター 病理診断科を紹介いたします。

当科は、常勤病理専門医1名、非常勤病理専門医1名、細胞検査士2名の4名で業務にあたっています。長らく病理診断科部長を務められていた森内先生に変わり、私、荒金茂樹が2023年3月より部長を任されておりますが、森内先生には引き続き病理診断に携わっていただいております。

当科では、院内で採取された生検検体、細胞診検体、手術検体を取り扱っています。

組織診断では、診断内容は腫瘍性疾患、炎症性疾患、感染性疾患、循環障害に伴う疾患、代謝異常に伴う疾患、免疫異常に伴う疾患など多岐に渡りますが、腫瘍性疾患、特に悪性腫瘍に関する診断が多くを占めています。悪性腫瘍の診断では、主に本邦の癌取り扱い規約とWHO腫瘍分類に基づいて診断を行い、最新の診断名、用語を用い誤解を生まない内容を心がけています。

細胞診断は、以前はスクリーニング要素が大きかったのですが、昨今は検査の低侵襲化や細胞診断の精度向上により細胞診断が最終診断になる症例が増えてきました。特に当院では、生検の難しい胆道癌、膵管癌



に対する胆汁細胞診、膵液細胞診、そして癌性胸膜炎、癌性腹膜炎に対する胸水細胞診、腹水細胞診が多く提出されています。前者は細胞数が少なく判断が難しい症例が多く、後者は細胞数が多くセルブロック（遠心分離で細胞成分のみをホルマリン固定）が作製でき免疫組織化学検査を追加できるもののHE染色の解釈が難しいため判断が難しい症例が多くみられます。このような判断の難しい症例は病理医-細胞検査士間で検討し、最終的な診断をしています。

どのような検体も患者さんの体の一部であり、患者さんと主治医の先生とでストレス、時間、労力をかけ、痛みやリスクを負って採取された大切な検体であることを忘れず、1例1例丁寧に診断させていただいております。

第77回 国立病院総合医学会 参加報告

未来へ向かって～日本の医療を支える国立病院機構～ 2023年10月20日(金)～21日(土)／広島

初めてベストポスター賞を受賞して～患者さまの「交流」「作業」と「QOL」

演題名

胸椎圧迫骨折・仙骨骨折後 QOL・ADL が低下した一症例
～面接式 QOL 評価の変化に着目した作業療法効果について～

私の発表会場は広島城に隣接する大会場でした。発表前に奈須院長先生、中村副院長先生が満面の笑みで声掛けして頂いたことは、今も私は鮮明に覚えています。発表を通じて他の参加者と明日からでも臨床で生かす発見がある「交流」ができました。

全員交流会にも参加し医療従事者だけでなく国立病院機構に所属するあらゆる職種の方々が大勢参加される場で面識ない九州ブロック外の方々と「交流」ができました。

私はリハビリテーション（リハ）で食べたり、入浴したり、人の日常生活に関わる全ての諸活動の「作業」にかかわる作業療法士です。本学会で学んだ「作業」から「交流」が生まれ、QOLの向上にかかわれるように患者さまへリハを提供していきます。

発表にあたり、ご指導頂いた皆様、ご協力頂いた患者さまに心より感謝申し上げます。（作業療法士 米澤 武人）



国立病院総合医学会に参加して

10月20日～21日に第77回国立病院総合医学会に参加させて頂き、「外来でがん薬物療法を受ける高齢がん患者にCGA（高齢者総合機能評価）基本チェックリストを用いた看護介入とQOLの変化」をテーマに口演発表を行いました。

CGAは様々な場所で効果を高く評価されていますが、臨床での導入や多くの看護師が同様の視点でケアを行うことに困難を感じている現状があります。会場では他病院の看護師と意見交換を行い、今後使用の拡大を図るための戦略などを話し合うことができました。

また、多職種が最新の知見に基づき様々なテーマで発表を行っており、日頃より実践している看護ケアに対し、常に探求心を抱き研究を行うことは患者さんに対する最善のケアの提供へ貢献されていくと改めて実感しました。看護師経験年数の若いスタッフの発表も多く、このような機会をより多くの看護スタッフと共有できるように自身も関わっていきたくと考えます。このような発表の機会を下さり、感謝致します。

（診療看護師（JNP）／がん薬物療法看護認定看護師 高橋 知子）

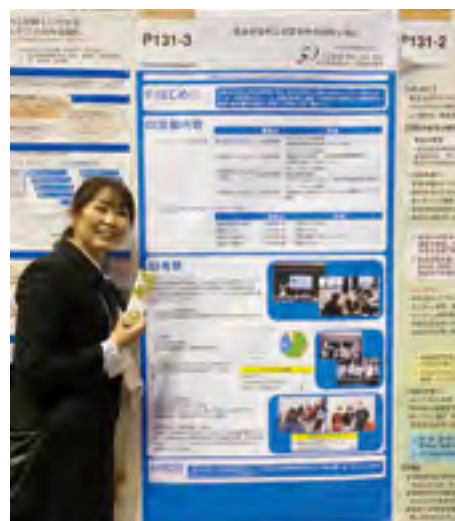


「感染対策向上加算初年度の取り組み」について発表してきました!!

10月20～21日に広島県で開催された第77回国立病院総合医学会に参加させて頂き、「感染対策向上加算初年度の取り組み」と題し、地域の先生方と共に取り組んだ1年間の活動についてポスター形式で発表を行いました。ポスター作成では内容はもちろんですが、色遣いや、配置など見やすいポスターとなるよう工夫を凝らして作成した結果、ベストポスター賞を頂くことが出来ました。自身の発表以外でも他施設の発表を聞き、多くの刺激を受けることができました。

また、学会での醍醐味は、その土地の名物を頂くことです。今回は広島美味しい牡蠣を頂きました。今回の発表に際し、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

(感染管理特定認定看護師 三重野 純子)

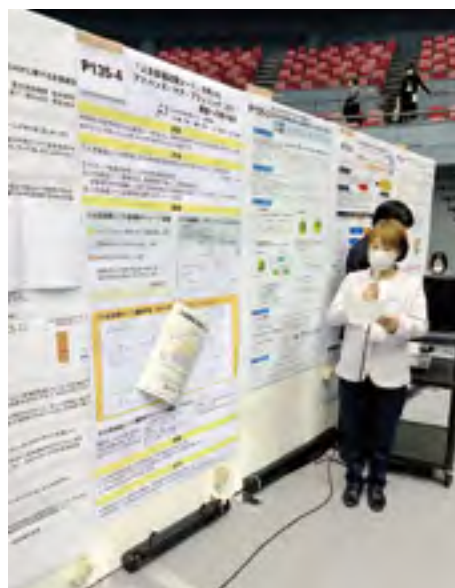


国立病院総合医学会に参加して

10月20日、21日に広島県で開催された第77回国立病院総合医学会において、昨年から取り組んでいる「人生会議記録シートを用いたアドバンス・ケア・プランニング推進への取り組み」をポスター発表しました。入院患者全員へ大分県作成の人生会議記録シートを配布し、「人生会議」について知る機会をつくり、病棟スタッフへは患者とのコミュニケーションの取り方や知識についてレクチャーをした取り組みをまとめました。

アドバンス・ケア・プランニングとは自分の受けた医療やケアについて医療者や自分の大切な人と一緒に話し合い実現していくことです。日本では「人生会議」と愛称をつけています。他病院の方とのディスカッションで「とても参考になりました」とお褒めの言葉を頂きました。「死」に関する話題は縁起でもない話と捉えられてしまいますが、「患者様がどのように生きていきたいか」をこれからも共に考え支える看護を行っていききたいと思います。発表にあたり、ご指導頂いた皆様方に感謝を申し上げます。

(2階病棟看護師 加藤 千尋)



団体発表内容

ベストポスター賞

氏名	所属部署	内容	日時	タイトル
米澤 武人	リハビリ	ポスター	10月21日 10:25～	胸椎圧迫骨折・仙骨骨折後 QOL・ADL が低下した一症例 ～面接式 QOL 評価の変化に着目した作業療法効果について～
嶋 由紀	栄養管理室	座長	10月20日 15:40～	栄養管理2-6 小児領域
古田 聡美	看護部	ポスター	10月21日 14:50～	A 病院におけるアドバンス・ケア・プランニング普及啓発・推進の活動報告
高橋 知子	看護部	口演	10月20日 16:20～	外来でがん薬物療法を受ける高齢がん患者に CGA (高齢者総合機能評価) 基本チェックリストを用いた看護介入と QOL の変化
三重野 純子	看護部	ポスター	10月21日 14:10～	感染対策向上加算初年度の取り組み
加藤 千尋	2階病棟	ポスター	10月21日 14:10～	「人生会議記録シート」を用いたアドバンス・ケア・プランニング推進への取り組み
勝田 泰志郎	医局	口演	10月20日 16:10～	下部消化管2-2
佐藤 晶子	外来	ポスター	10月21日 10:40～	がん関連認定看護師による意思決定支援に関する院内研修の実践報告 (第二報)
石田 さおり	外来	ポスター	10月20日 11:40～	緊急内視鏡対応を行う看護師への取り組み報告
渡邊 美貴	訪問看護	ポスター	10月21日 10:40～	地域で生活する利用者を支える～訪問看護ステーションの現状～

ベスト口演賞

ベストポスター賞

ベストポスター賞



キャンドルサービス 2023.12.21



クリスマスを病院で過ごす患者さんに少しでも気分を味わっていただけたらと思い、今年もクリスマスソングを流しながら各病棟を回りました。患者さんが笑顔で迎えてくれ、短い時間でしたが楽しいひと時を共に過ごすことができました。

(医療サービス・広報誌ホームページ委員会)



令和5年度 院内ボウリング大会



コロナが5類に変わった令和5年度、久々にレクリエーション委員会が稼働を始めました。第一弾として、令和5年11月21日、院内ボウリング大会（個人戦）を開催いたしました。奈須院長になってから初めてのボウリング大会でもあったため、57名も参加して頂き、大変盛り上がりました。2ゲームの結果、合計300点越えが2名、290点越えも3名おり、大変白熱した雰囲気でした。来年の開催に向けて、よりブラッシュアップしていければと思います。

(庶務班長 竹田津 智子)



人事異動

退職・転出等

発令事項	発令日	職 名	氏 名	備 考	発令事項	発令日	職 名	氏 名	備 考
退 職	R5.10.23	非常勤外来クラーク	塩月 裕子		退 職	R5.12.31	看護師(手術室)	山本 綾里	
退 職	R5.10.31	非常勤ドクタークラーク	高野 愛華		退 職	R5.12.31	一般職員(期間職員)	平岡 陽子	
退 職	R5.12.31	看護師(外来)	種崎小百合		退 職	R5.12.31	非常勤ドクタークラーク	牧 佑依	
退 職	R5.12.31	看護師(1階病棟)	後藤 真那						

採用・転入等

発令事項	発令日	職 名	氏 名	備 考
採 用	R5.12.18	医療社会事業専門員 (期間職員)	加藤 圭一	

基本理念

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

基本方針

- 一 365日24時間断らない診療を目指します
- 一 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 一 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 一 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 一 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 一 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト



Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

「緑と赤」… 昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
「青」…… 大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
「黒」…… 地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



表紙の写真や大分医療センターのなつかしい写真を募集します。
ぜひ編集委員へご提供ください！

編集委員

委員長 岡田 さおり

委 員 黒木 嘉文 早川 浩司 梶原 由衣 今井 友紀子 梅木 祐 渡辺 岳志 村上 英恵

外来診察医担当表

【令和6年1月1日現在】

患者のご紹介はこちら / 8:30~17:15

① ☎ **097-593-1112** / 総合支援センター
FAX 097-528-9651

①が繋がらない時・時間外は②へ

② ☎ **097-593-1111** / 病院代表

独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター

■ 受付時間 8:30~11:00

■ 診察開始時間 8:30~

※救急患者についてはこの限りではありません

診療科 曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合診療内科	平林 礼奈 (9:00~13:00)				
糖尿病・代謝・ 内分泌内科	谷村悠希江 仲間 寛(新患)	嶋崎 貴信 仲間 寛 谷村悠希江(新患)	嶋崎 貴信 谷村悠希江 仲間 寛(新患)	嶋崎 貴信 仲間 寛 谷村悠希江(新患)	嶋崎 貴信 谷村悠希江 仲間 寛(新患)
腎臓内科			竹野 貴志(予約制)		
膠原病内科			安倍いとみ(予約制)	梅木 達仁 (予約制 第1・第3・第5週)	
消化器内科 (肝センター)	半澤 誠人 山下 勉 大塚雄一郎	勝田泰志郎 室 豊吉 山下 勉	朝日奈文彦 山下 勉 大塚雄一郎	水内 梨絵 山下 勉 勝田泰志郎	大塚雄一郎 朝日奈文彦 半澤 誠人
循環器内科	有川 雅也 久保田勇輝 青木 貴紀(新患)	有川 雅也 佐藤 貴昭 青木 貴紀(新患)	青木 貴紀 佐藤 貴昭 久保田勇輝(新患)	青木 貴紀 久保田勇輝 有川 雅也(新患)	有川 雅也 久保田勇輝 佐藤 貴昭(新患)
心臓血管外科				和田 朋之(13:30~) まずは循環器内科に紹介ください	
呼吸器内科 (呼吸器センター)	大谷 哲史(新患) 山本 堯	大谷 哲史 内田そのえ(新患)	山本 堯(新患) 内田そのえ	大谷 哲史 升井 亮介(新患)	大谷 哲史(新患) 山本 堯
血液内科	諸鹿 柚衣 (9:00~12:00)			樋園 和仁 ※ (木曜日受付時間 新患8:30~10:00 / 再来8:30~11:00 診療時間8:30~)	
脳神経内科				日野 天佑 (13:00~17:00)	
外科	渡邊 公紀 高橋 純一	梶島 章 緒方 克哉	渡邊 公紀 荒金 佑典	高橋 純一 調 広二郎	荒金 佑典
呼吸器外科	(手術日)	高祖 英典	高祖 英典	(手術日)	高祖 英典
整形外科	田畑 知法 田中 佑太	田畑 知法 田中 佑太	(手術日)	田畑 知法 田中 佑太	金曜新患受付10時まで 田畑 知法 田中 佑太
泌尿器科	紹介は「外来担当医」宛てでお願いします。 (新患受付) 月・水・金は11:00まで、火・木は10:00まで				
	(新患受付) 8:30~11:00	(新患受付) 8:30~10:00	(新患受付) 8:30~11:00	(新患受付) 8:30~10:00	(新患受付) 8:30~11:00
婦人科	河野 香織 住野 泰弘 奈須 伸吉		河野 香織 住野 泰弘 佐藤 竜太		河野 香織 佐藤 竜太 奈須 伸吉
	岡田さおり	岡田さおり	梶原 由衣(午前) 西田 欣広(午後)※	岡田さおり	梶原 由衣
※水曜日午後 受付時間14:00~16:30 診療時間14:00~17:00					
放射線科	田嶋 創	高橋 浩平(午前) 本村 有史(放射線治療 新患午後)	田嶋 創	高橋 浩平(午前) 本村 有史(午後)	田嶋 創
専門診療科の判断が 困難な内科系疾患(午前)	総合診療内科 血液内科	呼吸器内科	循環器内科	血液内科	消化器内科



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構 認定病院

独立行政法人
国立病院機構

大分医療センター

<https://oita.hosp.go.jp>



〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号 TEL097-593-1111 FAX097-593-3106 / 総合支援センター直通 TEL097-593-1112 FAX097-528-9651